

## 4 「箕面らしさ」を生かすまち

### (1) 山麓に代表されるみどり豊かな自然環境を守ります

#### ① 基本方針

- ・山とみどりの自然環境を箕面のかげがえのない魅力として大切にする意識を高め、市民・事業者・行政の協働による保全活動を広げます。
- ・美しい河川を守り、水辺環境を市民の憩いとふれあいの場として大切に保全していきます。

#### ② 行政の役割

- ・公益信託「みのお山麓保全ファンド」を通じて、山林所有者及び市民相互の協働による山麓部の保全活動を支援します。
- ・国や府との連携を一層深めて、環境、農林、防災面などから山間・山麓保全をはじめとしたみどり行政を推進します。
- ・山林所有者、市民、NPO、事業者と連携し「山麓保全アクションプログラム」を推進します。
- ・森林の水土保全機能を維持するとともに、市民などに憩いと学びの場を提供するための森林整備を推進します。
- ・箕面らしい自然環境の保全と創出にむけて、制度や法的枠組みを整えます。
- ・生態系への影響を少なくするための方策を積極的に取り入れて、自然環境の保全に努めます。
- ・市民団体などと連携し、水辺環境の保全に取り組みます。

③ 成果指標

	成果指標名	成果指標設定の考え方	現状値 平成 26 年度 実績値	前期基本計画 平成 32 年度 目標値	後期基本計画 平成 32 年度 目標値
1	山なみのみどり に対する満足度	豊かなみどりに親しみ、愛着を持つことが、みどりを保全する取組につながることから、山なみのみどりに対する満足度を指標に設定し、最終目標値を 85%とする。	83%	85%	85%
2	山なみ景観保全 地区のうち、自然 緑地の指定に同 意が得られた面 積の割合	山林所有者、市民、行政が協働で取り組む山麓保全活動がどの程度進んだかを検証するため、山なみ景観保全地区内で所有者が山麓保全に同意し、市が指定した「自然緑地」の面積の割合を指標に設定し、最終目標値を 50%とする。	48%	50%	50%
3	市民による河川 などでの清掃美 化活動箇所数	水辺環境とのふれあいの機会の増加を図るため、市民やNPOが河川などの清掃活動等にかかわっている箇所数を指標に設定し、最終目標値を 15 箇所とする。	12 箇所	20 箇所	15 箇所

(2) 住宅都市として培われてきた落ち着いたある安心な  
住まい・まちなみ景観を大切にします

① 基本方針

- ・ 景観に配慮した美しいまちなみを守り育てていきます。
- ・ 多様な人々が安心して住み続けられる住まい・まちづくりを進めます。

② 行政の役割

- ・ 良好なまちなみ景観や住環境を誘導するため、まちづくり推進条例に基づく規制誘導や都市景観形成事業を推進するとともに、地元住民発意の地区独自のルールづくりなどの取組を支援します。
- ・ 高齢者世帯や障害者世帯、子育て世帯など誰もが安全に安心して暮らせる住まい・住環境に関する施策を推進するとともに、市民や事業者に対する情報提供などを行います。
- ・ 箕面森町、彩都などの新市街地については、地区計画や景観計画に基づいて魅力あるまちづくりを進め、着実な人口定着をめざします。
- ・ 都市景観基本計画の実現に向け、都市景観条例や景観法など各種制度を適切に運用し、箕面らしいまちなみの形成に努めます。
- ・ 良質な住環境の形成と多様なタイプの住宅供給が両立するよう、地域の特性に応じた規制誘導をめざします。
- ・ 全戸訪問の実施などにより住宅の防火対策や耐震化を推進します。
- ・ 倒壊などの危険性のある空き家について対策に取り組みます。

③ 成果指標

	成果指標名	成果指標設定の考え方	現状値 平成 26 年度 実績値	前期基本計画 平成 32 年度 目標値	後期基本計画 平成 32 年度 目標値
1	まちなみの美しさに対する満足度	美しいまちなみを守り育てる取組を行った結果、市民の満足度がどの程度上がったかを指標に設定し、最終目標値を 85%とする。	81%	73%	85%
2	市民主体による住環境に関するルールがある地区の数	市民主体による地区の住環境に関するルールづくりがどの程度進んだかの指標として、住環境に関するルールがある地区の数を設定し、最終目標値を 28 地区とする。	23 地区	—	28 地区
3	長期優良住宅の認定戸数（再掲）	安心して住み続けられる住宅を的確に表す制度として長期優良住宅認定制度があるため、長期優良住宅の認定戸数を指標に設定し、最終目標値を 2,200 戸とする。	1,367 戸	960 戸	2,200 戸
4	住宅の耐震化率	安心して住み続けられる住宅の普及のため、住宅の耐震化率を指標に設定し、最終目標値を国の目標値である 95%とする。	80%	95%	95%

### (3) 旧街道などの歴史や新しい市民文化を後世に伝えていきます

#### ① 基本方針

- ・市民が箕面の歴史・文化に誇りを持って子どもたちに伝えていけるよう支援します。
- ・市民の自主的な文化活動が新しい箕面の文化として定着するよう支援していきます。

#### ② 行政の役割

- ・文化財や歴史資料の保存に努め、それを活用し先人の生活や郷土の歴史などをテーマとした企画展、体験講座、現地学習会など各種講座を開催し、市民が箕面の歴史や文化に触れる機会の充実に努めます。
- ・各種文化情報の収集・提供や施設・設備の充実に努め、活動の活発化を図り、箕面市の市民文化を促進します。
- ・市民の自主的な文化活動を支援するため社会教育事業に対して支援を行います。

#### ③ 成果指標

	成果指標名	成果指標設定の考え方	現状値 平成 26 年度 実績値	前期基本計画 平成 32 年度 目標値	後期基本計画 平成 32 年度 目標値
1	郷土資料館企画展の来場者数	箕面の歴史・文化を知り、触れる機会の数を検証する指標として、郷土資料館の来場者数を設定し、最終目標値を 20,000 人とする。	17,273 人	20,000 人	20,000 人
2	市民が(公財)メイプル文化財団と協働で実施する文化イベントの数	市民の自主的な活動が新しい文化として長く受け継がれることを図るため、市民が公益財団法人箕面市メイプル文化財団と協働で実施する文化イベント数を指標に設定し、最終目標値を 30 件とする。	29 件	25 件	30 件

(4) 箕面の滝や紅葉に加え、新たな魅力の創出によって  
観光や産業を活性化します

① 基本方針

- ・観光資源を生かし、四季を通じて快適で魅力ある観光地とします。
- ・新産業の誘致をめざすとともに、地域の特性を生かし、サービスや魅力を向上させる取組を進め、商店街に活気を取り戻します。
- ・市民・事業者・行政が協力して地産地消を推進するとともに、農地が持つ多面的な機能を生かしながら農業を活発化します。

② 行政の役割

- ・四季折々の自然の魅力を、各種媒体を通じて市内外に発信し、着地型観光の促進を図ります。
- ・商店街などへの回遊性を向上させ、飲食、買い物、移動などによる消費の活性化を図ります。
- ・来訪者に「いつかこんなところに住んでみたい」と本市での生活への憧れを想起させるような満足度の高い滞在を提供します。
- ・来訪者が本市の産業、食文化、歴史や暮らしを体験・体感できるプログラムを生み出すため、事業者や市民の取組を支援します。
- ・潜在的な創業希望者が積極的に創業できるよう環境整備や支援などを行います。
- ・個店の経営強化や人材育成、地域資源の活用などにより、商店街に人が集う賑わいのある場づくりを進めます。
- ・農業体験や食育の推進などを通じて、農業への市民の関心を高めます。
- ・朝市や学校給食などによる地産地消を基調に、箕面産の安定した消費環境を構築するとともに、農業公社による遊休農地の発生防止や農業基盤の整備・改善を図り、営農が続けられるよう支援します。

③ 成果指標

	成果指標名	成果指標設定の考え方	現状値 平成 26 年度 実績値	前期基本計画 平成 32 年度 目標値	後期基本計画 平成 32 年度 目標値
1	観光客のまちなかへの回遊率	滝道を訪れる観光客に本市の観光名所である箕面公園を満喫してもらうとともに、まちなかへも回遊してもらうことで、本市全体の活性化及び賑わいの創出につながることから、本市の観光シーズンである紅葉期に箕面公園を訪れた人数とみのお本通り商店街を通行した人数の割合を指標に設定し、最終目標値を 50%とする。	32%	—	50%
2	店舗の新規開設数	地域社会の担い手として商店街の振興が重要であることから箕面市商店会連合会に参画する商店街・商店会の加入店舗の増加数を指標に設定し、最終目標値を 15 店舗とする。	8 店舗	—	15 店舗
3	市内の年間商品販売額	商業活性化の結果として、市内の年間商品販売額を指標に設定し、最終目標値を 450,000 百万円とする。	384,295 百万円 (平成 19 年度)	—	450,000 百万円
4	農業サポーター登録者数	農業者の営農継続には、ボランティアによる支援が有効なため、農業サポーター登録者数を指標に設定し、最終目標値を 150 人とする。	129 人	150 人	150 人
5	遊休農地の解消率	農業者の高齢化等、今後更なる担い手不足等による不耕作農地の増加へ対応するため遊休農地の解消率を指標に設定する。農地パトロールにより農地の状況を把握し、自己耕作や改善に向けた着手を指導するとともに利用権設定などの促進に努め、解消率 100%を目標とする。	97.7%	—	100%
6	朝市の販売額	農業振興、地産地消の進展を図るため、朝市販売額を指標に設定し、最終目標値を 100,000 千円とする。	74,892 千円	30,000 千円	100,000 千円

(5) 箕面らしい都市魅力をさらに高め、誰もが住んでみたいと思えるまちをつくりまします

① 基本方針

- ・「箕面らしさ」を全国に発信し、箕面のブランド力を高めます。

② 行政の役割

- ・箕面に住みたくなるようなPR冊子やホームページなどを充実させ、「箕面」を内外に積極的にPRします。
- ・住宅展示場や不動産業者などへ積極的に情報提供やPR活動を行い、箕面への移住・定住を促進します。
- ・箕面の豊かな地域資源を活用し、各地域に新たな魅力を創造します。
- ・「箕面市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進し、人口増への好循環を生み出します。

③ 成果指標

	成果指標名	成果指標設定の考え方	現状値 平成 26 年度 実績値	前期基本計画 平成 32 年度 目標値	後期基本計画 平成 32 年度 目標値
1	住みよさランキング（関西圏）	全国の市を対象とする住みよさランキングは、関西圏に移り住むことになった人が、居住市を選択する際の目安のひとつとなるため、これを指標に設定し、関西 1 位を目標とする。	2 位	—	1 位
2	住みよさランキング（全国）	住みよさランキングは、箕面のブランド力を表す客観的な指標となるため、これを指標に設定し、全国 15 位を目標とする。	26 位	15 位	15 位
3	新聞などで箕面市関連の話題が報道された件数（事件・事故を除く）	「箕面らしさ」を全国に発信する取組の結果を検証する指標として、新聞などでの報道件数を指標に設定し、最終目標値を 230 件とする。	180 件	230 件	230 件